

市町村健康増進計画等の推進に係る取組について（R4年度）

市町村名	えびの市
事業名	各種がん検診事業
対象者	次の対象者のうち該当するものの□に✓をしてください。「その他」については、内容をお答えください。（複数回答可）
1 住民全体	<input checked="" type="checkbox"/>
2 出生～児童・青年の世代	<input type="checkbox"/>
3 働く世代	<input type="checkbox"/>
4 高齢期	<input type="checkbox"/>
5 その他	<input type="checkbox"/>
	その他の内容
事業概要	<p>健康増進事業の一環として、疾病の早期発見・早期治療に寄与するため、肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん、前立腺がん、肝炎ウイルス検診を個別・集団検診にて実施。</p> <p>○個別通知 5月に対象者全員へそれぞれが受診できる各種がん検診等が記載された「あなたが受けられる健（検）診一覧」等の通知を個別に郵送している。また、集団検診ではWEB予約を活用し、利便性の向上に努めている。</p> <p>○無料対象者の設定 下記年齢の方へ無料で受けられる検診を設定。 ・子宮がん及び乳がん検診 ……年度内年齢30歳・36歳・40歳の女性の方 ・胃がん検診 ……年度内年齢50歳・56歳・60歳・66歳の方 ・大腸がん検診 ……年度内年齢40歳・50歳・56歳・60歳・66歳の方</p> <p>○受診勧奨 大腸がん検診は肺がん、胃がん、乳がん検診と同時受診を可能としている。 健康相談や出前講座・健康教育、パネル展などの市が実施する保健事業の場を通して、各種がん検診等の受診勧奨を実施。また、各種がん検診等の未受診者への電話による受診勧奨を実施。令和4年度は乳がん検診の無料対象者に対して受診勧奨を実施した。</p> <p>○精密検査受診勧奨 各種がん検診等を受診し、「要精密検査」が必要となった方へは訪問による精密検査受診勧奨を実施し、早期発見・早期治療を促した。翌年度の検診が開始される前に、個別検診実施医療機関へ精密検査実施状況調査を送付。その調査でも結果を確認できない方へは、個別に電話、アンケート送付にて受診状況確認を行う。</p>

参加者数	延べ受診者数：3270人
------	--------------

事業予算	各種検診等委託料：14,317千円
------	-------------------

事業効果等	
<p>○無料対象者の設定 … 受診者数/無料対象者数 (受診率)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん 81人 / 924人 (8.8%) ・大腸がん 108人 / 1113人 (9.5%) ・子宮がん 56人 / 210人 (26.7%) ・乳がん 56人 / 210人 (26.7%) <p>○各種がん検診等の受診率 … 受診者数/対象者数 (受診率) ※市独自の集計 (全数集計)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん (透視・内視鏡) : 371人 / 11060人 (6.78%) ・大腸がん (便潜血) : 987人 / 12865人 (7.67%) ・肺がん (ヘリカルCT) : 590人 / 12865人 (4.59%) ・前立腺がん : 489人 / 5858人 (8.35%) ・子宮がん : 349人 / 8111人 (8.98%) ・乳がん (マンモ+エコー) : 335人 / 7124人 (9.00%) ・肝炎ウイルス : 149人(40歳以上で過去に受診歴のない方) <p>○精密検査受診率 (令和3年度分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん (透視) : 集団 100.0% ・大腸がん : 集団 86.2% 個別 65.0% ・子宮がん : 集団 100.0% 個別 77.8% ・乳がん : 集団 100.0% 個別 100.0% 	

課題等	
<p>各種がん検診等の受診者数を令和3年度と比較すると、胃がん、肺がん、子宮がん検診がやや減少した。国の目標である、受診率50%以上には及ばないため、今後も受診勧奨機会の増加や受診勧奨方法の工夫について検討する必要がある。</p> <p>精密検査受診率については、大腸がん検診（個別検診）で国の目標である70%を達成できていない状況にある。翌年度の検診が開始される前に、個別検診実施医療機関へ精密検査実施状況調査を送付している。またその調査でも、受診状況を確認できない方へは、個別に『大腸がん検診の要精密者に対する受診状況調査』を実施している。その調査票より、「要精密であることを知らなかった」と回答する方が多いことが明らかになっている。できるだけ検診受診年度内に、直接本人へ連絡をとり、精検受診結果が把握できるよう体制を整える必要がある。</p>	

写真・グラフ等	